

平成24年度における食品安全委員会の リスクコミュニケーションの実施状況について

- 1 評価案件に関する意見交換会（食品安全委員会主催）
- 2 食品中の放射性物質対策に関する説明会（関係省庁との共催）
- 3 地方公共団体との共催による意見交換会
- 4 ホームページによる情報提供
- 5 メールマガジンによる情報提供
- 6 食の安全ダイヤルの取組
- 7 関係者との連携強化（報道機関、消費者団体）
- 8 食品安全委員会セミナー（食品安全委員会主催）
- 9 地方公共団体等が実施する意見交換会等への講師派遣
- 10 ジュニア食品安全ゼミナール（地方公共団体との共催）

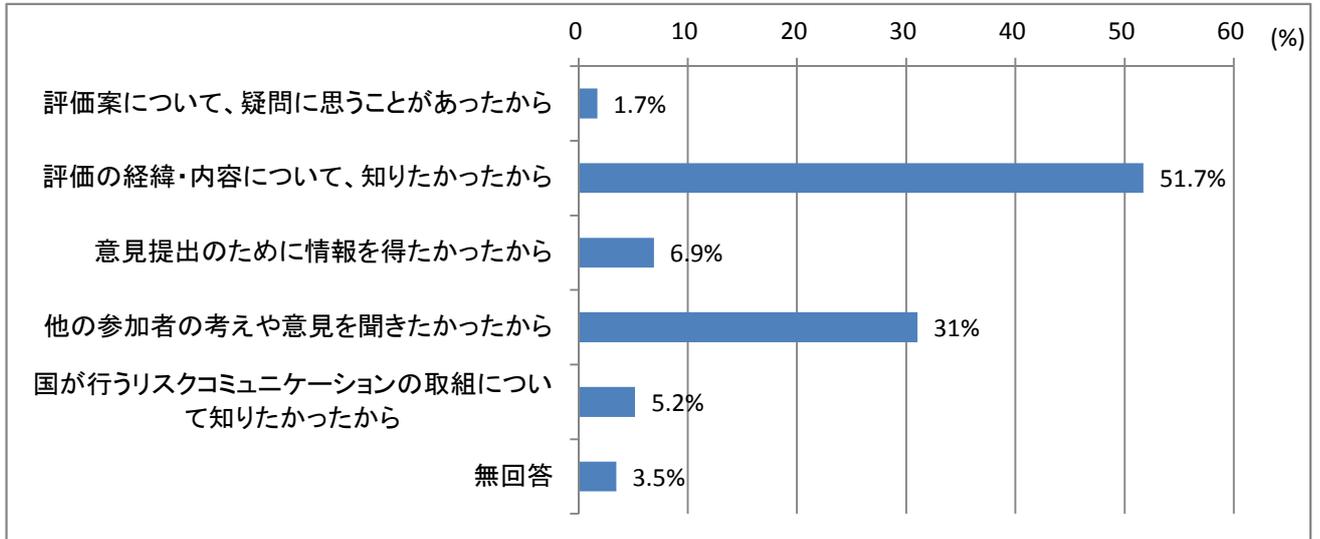
食品安全委員会主催による意見交換会の実施概要 (評価案件に関するもの)

食品安全委員会では、食品健康影響評価のうち、国民の関心が高い審議結果案について、意見・情報の募集(パブリックコメント)期間中に講演方式による意見交換会を開催している。

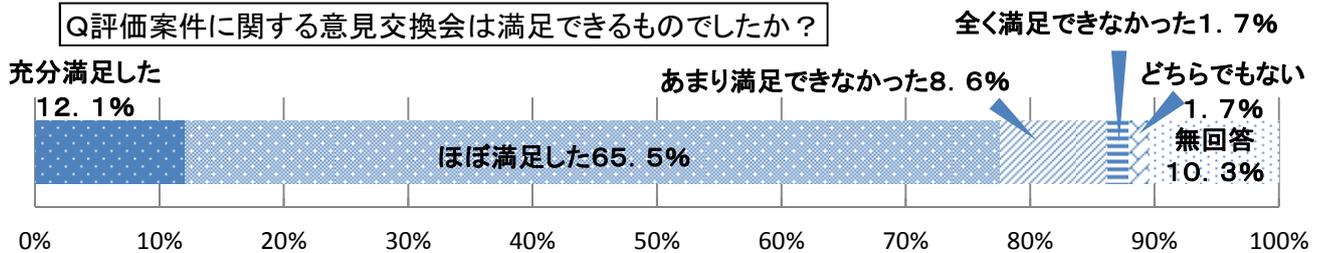
日時	平成24年9月20日(木) 10:00~12:00
テーマ	牛海綿状脳症(BSE)対策の見直しに係る食品健康影響評価について
開催場所	東京(食品安全委員会 会議室)
講演者	食品安全委員会プリオン専門調査会 座長 酒井 健夫
進め方	食品安全委員会事務局より評価の経緯、意見交換の進め方について説明後、講演者が評価案の概要について説明を行った。 意見交換は、それぞれ45分程度の時間をとり、参加者の発言に講演者が応答した。 また事務局からは、適宜、質疑に関係した評価書案の記載箇所を紹介するなどの情報提供を行った。
参加者から寄せられた質問・意見の例	<ul style="list-style-type: none"> ・BSEの原因について、異常プリオンたん白質とあるが、科学的にこれだけなのか？そのほかの要因はないのか？ ・結論が先にありきで、そこに至るような評価書だと考える。アメリカの30か月齢以下の牛肉を日本に輸出できる環境づくりをこの評価書はしてしまったのではないか？政治的な要因があるのではないか？ ・非定型のBSEが何故人への感染性が低いと言えるのか？科学的に検証がされていないことが現状ではないのか？ ・現行の飼料規制とのリスク管理措置を前提にして評価をされているが、そもそも各国のリスク管理がしっかりできているのか？ ・今まではSRMを除去すると言ってきたが、消費者を納得させられるか？
参加者	92名(食品関連事業者42名、消費者団体13名、食品関連研究者1名、生産者1名、行政関係者20名、その他15名)
充足率	92%(参加者数/募集人数)

評価案件に関する意見交換会の参加者に対するアンケート結果

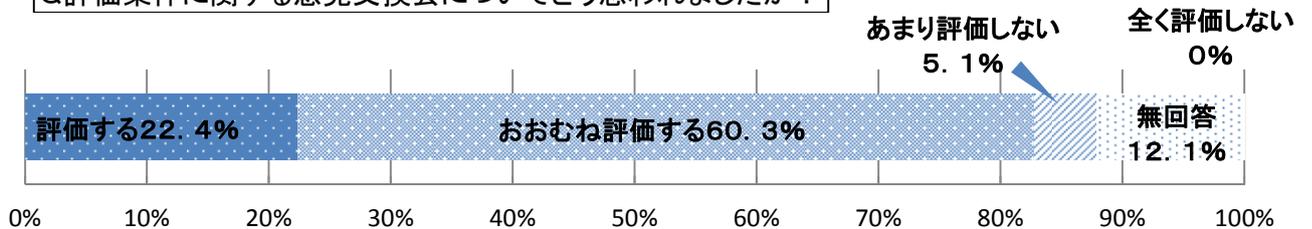
Q評価案件に関する意見交換会に参加した目的は？



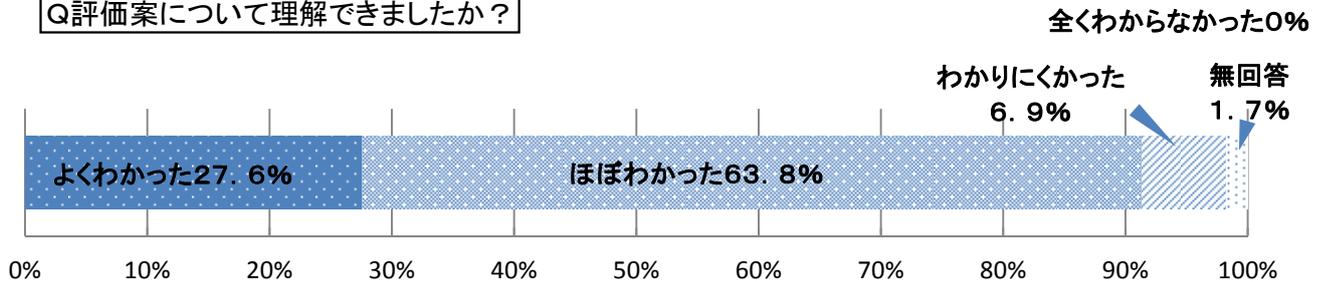
Q評価案件に関する意見交換会は満足できるものでしたか？



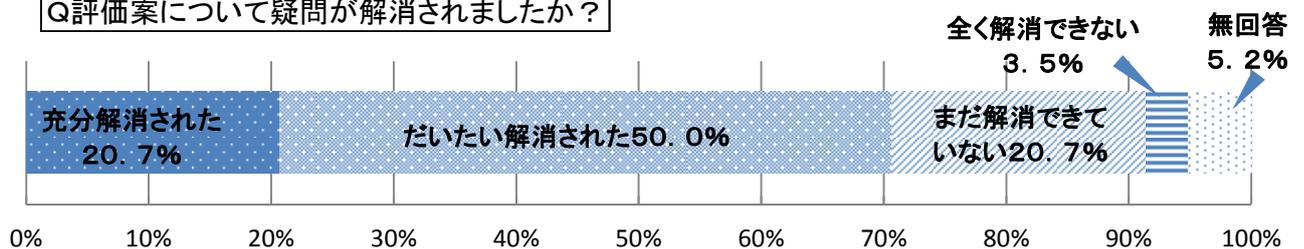
Q評価案件に関する意見交換会についてどう思われましたか？



Q評価案について理解できましたか？



Q評価案について疑問が解消されましたか？



食品中の放射性物質対策に関する説明会(リスク管理機関との共催)の実施概要

食品中の放射性物質については、平成23年10月27日に食品安全委員会が取りまとめた食品健康影響評価をふまえ、厚生労働省において新たな基準値が設定され、平成24年4月1日から施行されている。

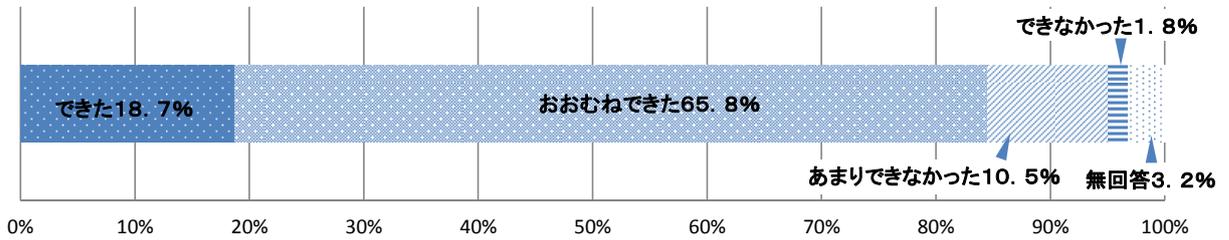
この新たな基準値や食品健康影響評価等に対する理解を深めるため、食品安全委員会と消費者庁・厚生労働省・農林水産省は共催で、各地で「食品中の放射性物質対策に関する説明会」を開催した。説明会で使用した資料等は順次ホームページに掲載している。

地域	開催地	参加者数	充足率	開催日
北海道・東北	北海道	398名	100%	5/10(木)
	青森県	222名	63%	7/18(水)
	宮城県	408名	68%	9/4(火)
	福島県	169名	113%	9/5(水)
関東	東京都	223名	89%	4/20(金)
	神奈川県	203名	81%	4/25(水)
	埼玉県	124名	124%	8/1(水)
	千葉県	103名	52%	8/23(木)
北陸	富山県	270名	募集定員なし	7/11(水)
	新潟県	132名	66%	11/9(金)
東海	愛知県	384名	85%	8/29(水)
	三重県	154名	77%	10/26(金)
	岐阜県	96名	48%	11/13(火)
近畿	滋賀県	130名	65%	5/8(火)
	大阪府	370名	93%	5/17(木)
	兵庫県	100名	100%	8/22(水)
	京都府	221名	92%	9/11(火)
	和歌山県	167名	84%	10/12(金)
	奈良県	86名	43%	10/19(金)
中国・四国	香川県	137名	91%	5/28(月)
	岡山県	175名	175%	7/3(火)
	愛媛県	151名	101%	7/24(火)
	徳島県	129名	86%	9/6(木)
	高知県	162名	162%	9/26(水)
九州	熊本県	139名	93%	10/2(火)

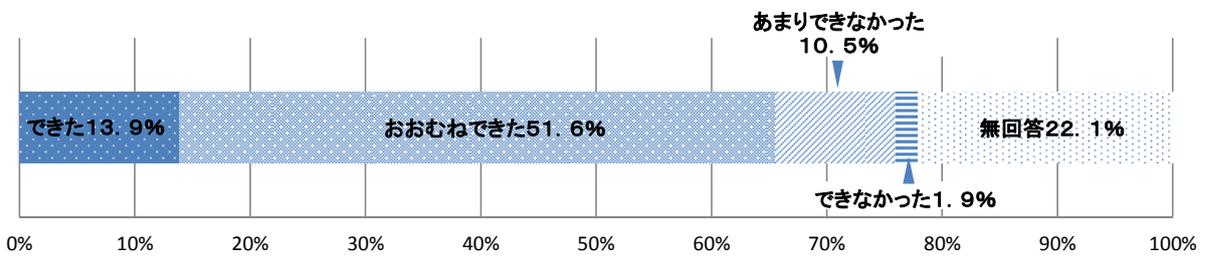
参考：平成24年1月～3月に7都府県(岩手県、宮城県、福島県、東京都、愛知県、大阪府、福岡県)にて開催。

参加者に対するアンケート結果

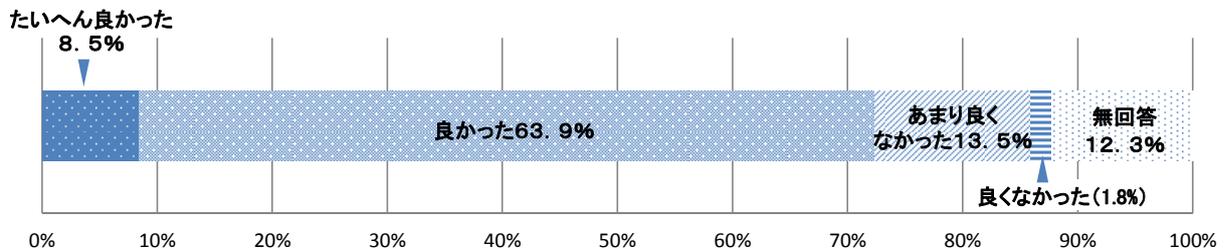
Q. 説明について、理解することができましたか



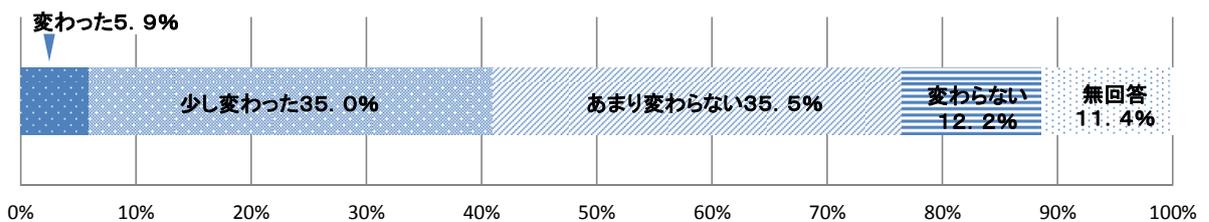
Q. 意見交換の内容について、理解することができましたか



Q. 全体の評価はいかがでしたか



Q. 説明会に参加する前と後ではご自身の考え方は変わりましたか。



地方公共団体との共催による意見交換会実施概要

	テーマ	地方公共団体	形態(形式)	参加者数 (定員)	開催日
1	食品中の 放射性物質	京都府(南丹)	地域の専門家との意見交換会(ワークショップ)	46名 (-)	7/4(水)
2		北海道(旭川)	地域の消費者団体と共催した意見交換会(講演会)	60名 (100名)	7/20(金)
3		高知県・高知市	地域の専門家との意見交換会(フォーラム)	23名 (40名)	7/23(月)
4		山口県	地域の専門家との意見交換会(ワークショップ)	33名 (-)	8/2(木)
5		北海道(函館)	地域の消費者団体と共催した意見交換会(講演会)	62名 (70名)	10/10(水)
6		群馬県	地域の専門家との意見交換会(フォーラム)	30名 (30名)	10/23(火)
7		高知県・高知市	地域の消費者団体と共催した意見交換会(ワークショップ)	38名 (40名)	11/29(木)
8	食品添加物	山口県(宇部)	地域の消費者団体と共催した意見交換会(ワークショップ)	39名 (40名)	8/22(水)
9		堺市	食品のリスクを考えるワークショップ	25名 (30名)	11/6(火)
10		岡崎市	地域の消費者団体と共催した意見交換会(フォーラム)	31名 (30名)	11/12(月)
11	農薬	兵庫県	食品のリスクを考えるワークショップ	30名 (30名)	11/14(水)
12	食肉の生食	滋賀県	地域の消費者団体と共催した意見交換会(シンポジウム)	45名 (100名)	11/22(木)

○食品中の放射性物質

- ・ベクレルとかシーベルト、放射線、放射性物質という言葉がよく分からないのですが？
- ・話題提供の中でカリウムの話が出てきましたが、どういうことでしょうか？
- ・放射線の健康影響に関して、事故由来の人工の放射線と自然にある天然の放射線は違いがあるのでしょうか？
- ・セシウムは100Bq/kg まで大丈夫ということですが、排出されるまでに時間がかかると思います。毎日食べた場合、身体に蓄積されていくと思いますが、その場合のリスクについてはどのように考えればよろしいですか？
- ・体内に取り込まれた放射性物質の長期にわたる影響はどのようなのでしょうか。また、大人と子どもの違いとはどのようなのでしょうか。
- ・すべての食品を検査して、放射能の数字を表示して下さい。
- ・学校給食用の食材をすべて検査して、保護者に情報公開してほしい。
- ・こどもにとって100ベクレルの基準は高すぎます。もっと低くして下さい。
- ・国や自治体の検査結果をもっと簡単にわかりやすく情報提供してほしい。また、インターネットが使えない人にもちゃんと分かるように情報提供してほしい。
- ・このような気軽な意見交換会をもっと開催してください。
- ・市民が気軽に食品を持ち込んで検査できるような市民測定所を開設してほしい。
- ・加工食品は信用できない。安全な産地のもので、特に学校給食関係は地産地消を徹底すべき。
- ・西日本産の米の空袋が福島県へ大量に運ばれていると聞いている。産地偽装が横行しているので安心できない。
- ・原発を推進しているICRPのデータは信用できない。

○食品添加物

- ・食品添加物について、子どもと大人が同じ基準でよいのか？
- ・多くの食品に食品添加物が含まれているが、食品と食品添加物、食品添加物同士の食べ合わせに問題(複合影響)はないのか？
- ・食品添加物は化学物質というイメージがあるが、化学物質以外の食品添加物はあるのだろうか？
- ・食品添加物の表示を見やすいものにしてほしい。
- ・食品に食品添加物がどれくらい入っているか記載して欲しい。
- ・国と自治体の事業やその対象が重複しないよう、連携して効率的に幅広く対応してもらいたい。
- ・食品添加物の検査結果の公表が、あまりされていない。

○農薬

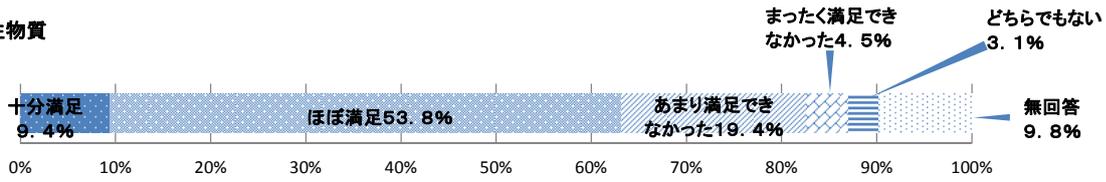
- ・安全係数が100分の1である根拠は？
- ・市販されている野菜・果物の残留農薬基準の設定方法は？
- ・国産と輸入食品は基準が違うのか？
- ・中国、アメリカの輸入産物の違反率の推移、国産と比較してどうなのか？
- ・残留農薬のリスクは実際のところどうなのか？
- ・輸入食品の検査体制は不十分と思う。
- ・農薬取締法での使用基準が守られていないので農薬が残留する。農家への取締が甘い。
- ・農薬＝× 無農薬＝○ という単純な評価が多いことに、懸念を抱いています。生産者にも、流通業者にも、消費者にもハッピーな道はないのでしょうか。

○食肉の生食

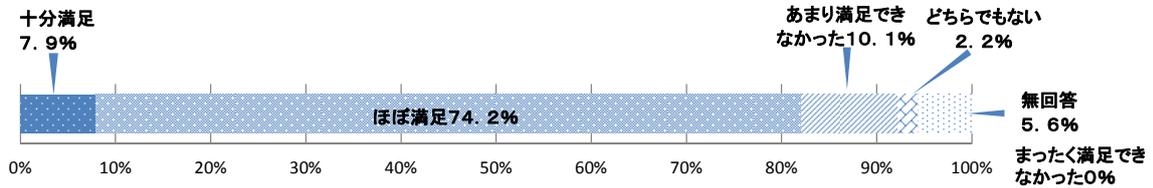
- ・殺菌するためには、加熱は有効ということはわかったが、マイナス18℃などの冷凍処理は有効なのですか？
- ・ステーキのレアは大丈夫なのですか？
- ・野生のイノシシ、シカなどを個人ルートでもらう。シカ肉のタキは美味しいと言われるが、牛肉以外の生食はどうか？
- ・生食するのに、表面を加熱してトリミングをするなどというのは、全くナンセンス。コストもかかるし、安全性が担保されるとは思えない。生食用の牛肉は、と殺・解体処理から全く別の施設で行い、安全性が確保された肉として流通させるべきである。
- ・カンピロバクターの食中毒で入院患者が出るが、家族で食べて子供だけ食中毒になる。わかるのは半月ぐらいたってからのので現品はなく、事業者を営業停止にできないため、指導効果が薄く悪循環になっている。食中毒事例は氷山の一角である。
- ・生食による危険性を子どもへの食育で教えるべき。

1 満足度(満足できるものだったか)

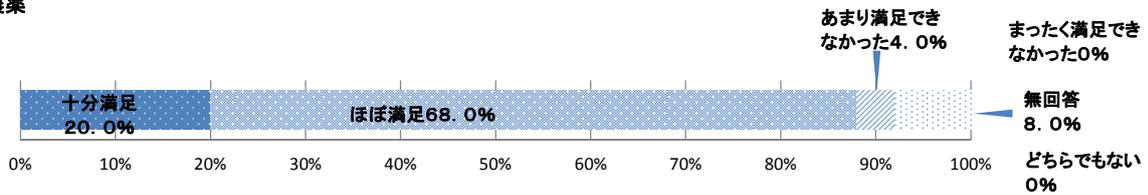
放射性物質



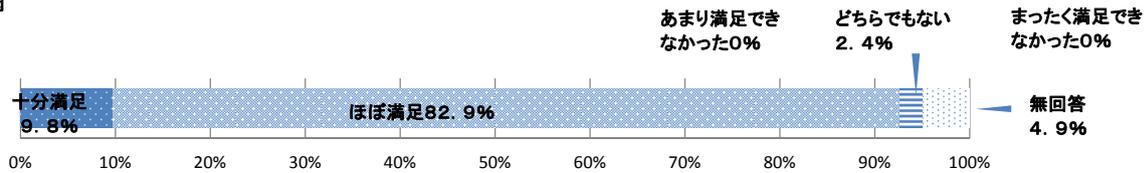
食品添加物



残留農薬

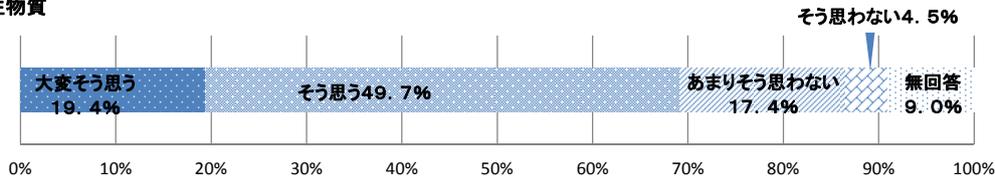


生食肉

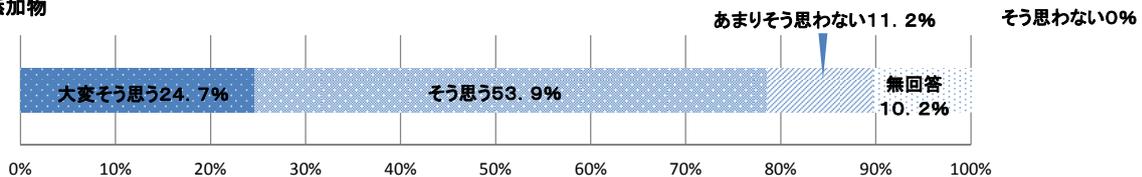


2 理解度(参加する前に比べ理解が深まったか)

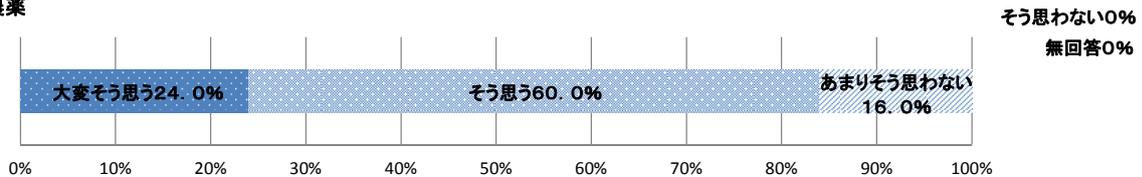
放射性物質



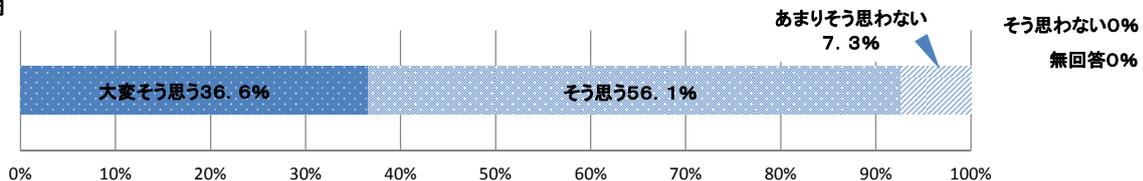
食品添加物



残留農薬



生食肉



ホームページによる情報提供

食品安全委員会ホームページでは、委員会や意見交換会等の資料や概要、食中毒等特定のトピックに関する科学的知見等を随時掲載している。特に国民の関心が高いと考えられる事案については、「重要なお知らせ」又は「お知らせ」を活用して情報提供を行っている。

○アクセス件数（平成24年度）

1. トップページ

月平均アクセス件数									
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
47,589	48,488	50,811	48,507	49,926	44,900	47,517	52,419	44,966	40,765

2. 食品安全総合情報システム

月平均アクセス数									
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
399,234	276,188	292,452	296,194	679,845	482,039	310,202	362,002	420,317	473,866

○アクセスの多いページ（トップページ、検索ページ等を除く。（平成24年度4月～12月））

- ①食中毒のポイント
- ②大豆及び大豆イソフラボンに関するQ&A
- ③新着情報
- ④食品中の放射性物質に関する情報
- ⑤ノロウイルス食中毒について
- ⑥ノロウイルスの消毒方法
- ⑦プリオン専門調査会
- ⑧遺伝子組換え食品等専門調査会
- ⑨農薬専門調査会
- ⑩意見交換会、指導者育成講座及び関係団体等との懇談会の開催案内及び実績

メールマガジンによる情報提供

食品安全委員会の活動や委員会からのお知らせをタイムリーにお届けするために「食品安全 e-マガジン」を配信。

原則として、毎週火曜日に配信するほか、読み物版として実生活に役立つ情報、安全性の解説、Q & A 委員の随想、重要なお知らせなどを月 2 回配信。

○平成24年 4 月～平成24年12月の配信数 43件

○メールマガジン会員数 12,184名（平成24年12月末日現在）

（内訳）

・ 男女別

男性 8,208名

女性 3,976名

・ 年齢構成

20歳未満 46名

20歳代 1,232名

30歳代 3,075名

40歳代 3,595名

50歳代 2,934名

60歳代 1,141名

70歳以上 161名

・ 職業別

消費者団体・生活協同組合 453名

主婦、学生等 996名

生産者（農水産従事者等） 158名

食品関係事業者・団体（加工、流通、販売等） 4,841名

マスコミ（新聞記者、カメラマン等） 221名

行政（自治体職員、独立行政法人職員等） 1,831名

食品関連研究・教育機関（教員、研究職員等） 1,082名

その他 2,602名

食の安全ダイヤルの取組

「食の安全ダイヤル」で一般消費者等からの相談や問合せを受け付け、多く寄せられる質問等については、Q & Aを作成してホームページに掲載している。

○問い合わせ件数 613件（平成24年12月末時点）

（内訳）

- ・ 委員会の運営に関する事 94件
（委員会や専門調査会の会合、ホームページ、メルマガ等について）
- ・ リスク評価に関する事 98件
（評価の方法、評価やファクトシートの内容等について）
- ・ リスク管理に関する事 399件
（食品表示、衛生管理、規格基準等について）
- ・ その他 22件

○「よくある質問等」としてホームページに掲載した事項

- ・ 遺伝子組換え技術を利用して製造された添加物の安全性はどのように評価するのですか。
- ・ 米国において、韓国産カキによる食中毒が発生したという報道がありましたが、日本では輸入食品の安全性をどう守っているのですか。
- ・ このたびBSE対策の見直しに係る評価書が取りまとめられたと聞きましたが、今回の評価を行った経緯と評価結果のポイントを教えてください。

関係者との連携強化(報道機関、消費者団体)実施概要

食品健康影響評価等の食品の安全に係る重要事項について消費者への情報の効果的な提供と情報の収集に資するため、国民に対する影響力や重要性を踏まえ、マスメディアや消費者団体等関係者との間で、国民の関心の高い食品健康影響評価を中心に勉強会や情報交換会等を定期的実施する。

日時	平成24年7月20日	平成24年12月11日	平成24年12月12日
	15:00-17:00	10:30-12:30	17:00-18:00
対象	報道機関	消費者団体	報道機関
テーマ	BSE(牛海綿状脳症)対策に係るこれまでの食品健康影響評価について	BSE対策の見直しに係る食品健康影響評価結果について	BSE(牛海綿状脳症)に関する基礎的な科学的知見について
開催場所	食品安全委員会 大会議室	食品安全委員会 委員長室	食品安全委員会 大会議室
講演者	食品安全委員会 委員長 熊谷 進		
進め方	食品安全委員会事務局より評価の経緯等について説明後、講演者が評価案について説明を行った。その後、質疑応答に45分程度の時間をとり、参加者の質問に講演者が応答した。また事務局からは、適宜、質疑に関係した評価書案の記載箇所を紹介するなどの情報提供を行った。	食品安全委員会事務局より平成24年度の活動状況の報告後、講演者が評価書について説明を行った。その後、意見交換・質疑応答に60分程度の時間をとり、参加者との情報交換を行った。参加者の質問に講演者が応答し、事務局からは、適宜、質疑に関係した評価書の記載箇所を紹介するなどの情報提供を行った。	講演者から評価の経緯、評価書等について説明を行った。その後、質疑応答に30分程度の時間をとり、参加者の質問に講演者が応答した。また事務局からは、適宜、質疑に関係した評価書案の記載箇所を紹介するなどの情報提供を行った。
参加者から寄せられた質問・意見の例	<ul style="list-style-type: none"> ・潜伏期間のデータ等があったが、検査しても検出できない期間はいつか。 ・21か月齢で見つかったものとの関連は。 ・飼料規制の効果は分かった。検出できない期間でも体内には異常プリオンがあると思うが、どういう状態か。 ・異常プリオンタンパク質を摂取してすぐには検出されないのか。 ・全頭検査が続いているが、都道府県や消費者が科学的評価を受け入れないことについてどう思うか。 ・自ら評価としてBSEの中間とりまとめをしてそのままになっているが、諮問とは別に、独自で見直すべきでは。 ・知りたいのは人体への影響。潜伏期間は5年だが、早い時期の牛を食べた場合はどうなるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・米国の飼料規制は完全になされているのか ・非定型BSEについてもまだよく解明されていない部分も多くあり不安である。 ・SRMIについては月齢に関わらず全て除去をし、より安全に近づける等することはできないのか。 ・新たな知見が得られれば管理措置の変更はあり得るということについて、今回の件が代表例となるだろうが、それをどのように消費者へ伝えていくかは難しい問題。 ・食品安全委員会で科学的知見を持って評価され、これまでグレーだった部分がかかり管理されるようになったのはよかったと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2005年に20か月に引き上げた時に、さらに引き上げるという評価はできなかったのか。 ・自治体の全頭検査が続いているが、それにかかる費用を無駄だと思いませんか。思われるならば、食安委として、管理機関に提言できないか。 ・30か月齢で切ると、31、32か月齢で問題があるように思われる。しかし、今日の説明によれば、46か月齢以上は不検出なので、そのことを発信すべき。 ・ブラジルの発生事案については、評価に影響を与えるのか。 ・2002年以前に産まれた牛を淘汰してしまえば、完全に管理された牛だけになるので、淘汰しろと管理側に言うべきではないか。
参加者	34名	主婦連合会、消費科学センター、全国消費者団体連絡会、全国地域婦人団体連絡協議会、日本生活協同連合会	24名

食品安全委員会セミナーの実施概要

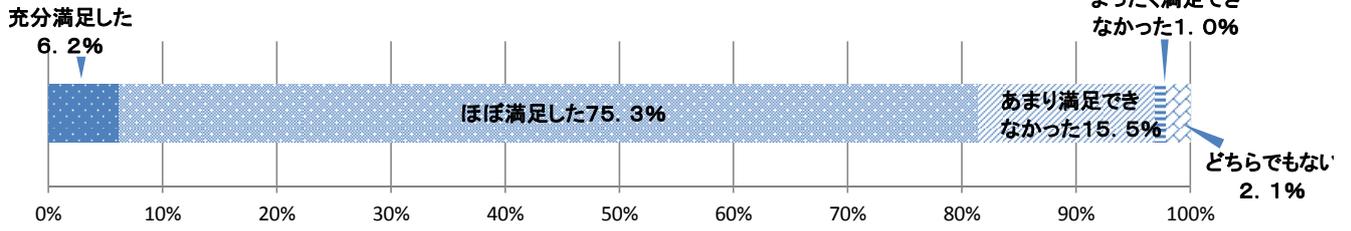
食品安全委員会では、食品安全委員会が行う食品健康影響評価のための情報収集並びに国民の関心が高い食品安全に関する情報提供を目的に、国内外から専門家を招へいし、セミナーを開催しています。
今年度は、国内外から6名の専門家をお招きして、2回開催し、参加者は計211名でした。なお、本セミナーで使用した資料や質疑応答などの内容は順次ホームページに掲載しています。

日時	平成24年10月4日	平成24年11月20日
セミナー名	アルミニウムの健康影響と国際的な動向について	食品中微量成分のリスク評価手法の国際動向
進め方	食品安全委員会化学物質・汚染物質専門調査会、器具・容器包装専門調査会の広瀬明彦専門員にコーディネートいただき、海外からお招きしたカナダマギル大学のジュード・ポアリエ博士及び英国基準庁ダイアン・ベンフォード博士より、アルミニウムの毒性に関する調査研究や、国際的な安全性の評価等について、食品安全委員会添加物専門調査会江馬真専門委員及び神戸大学医学研究科入野康宏博士より、アルミニウムの生殖試験に関する調査研究や、国内における精神・神経疾患に対する新たなリスク評価指標の開発に向けた取り組みについて、それぞれ御講演をいただきました。その後、参加者と意見交換を行い、多数のご意見を頂きました。	食品安全委員会化学物質・汚染物質専門調査会、器具・容器包装専門調査会の広瀬明彦専門員にコーディネートいただき、海外からお招きしたミラノ大学薬理科学部のコラド・ロドヴィコ・ガリ博士より、毒性学的懸念の閾値(TTC)の最新の進歩について、また、元FDA職員、現ステップトー・アンド・ジョンソン法律事務所ワシントン事務所のミッチェル・チーズマン博士より、諸外国での毒性学的懸念の閾値(TTC)の運用状況について、それぞれ御講演をいただきました。その後、参加者と意見交換を行い、多数の御意見を頂きました。
参加者から寄せられた質問・意見の例	<ul style="list-style-type: none"> 大豆調整乳を与えられている乳児のアルミニウムによるリスクはどれ位のものか。 血中アルミニウム量を血清をもとに測定している理由は何故か。 腎障害の患者血液を検査対象としているが、尿細管障害と糸球体障害とでは、血清中のアルミニウムに差が生じるのか パールパウダーは何十年も前から、顔に塗ったり、飲んだりしているが、英国で問題になったのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 皮膚暴露については、お話があったが、TTCの吸入曝露については、どの位研究が進んでいるのか。 医薬品に関しては、FDA、EMAはTTCのリミットを1ppmと設定しているが、その理由は如何に。 地表水のFDA、TTCの適用、混合物に対するTTCの適用について示されているか。 評価手法が保守的である必要はあると理解するが、一方、あまりに保守的過ぎると、有用な化学物質が厳しい評価をもって使用できなくなることが懸念される。どの程度保守的なデータがあるのかという事例を紹介して欲しい。また、有用な化学物質が厳しい評価をもって使用できなくなる可能性が予測されるものは特定できるか。
参加者	123名(食品関連事業者66%、食品関連研究者7%、行政4%、その他23%)	88名(食品関連事業者47%、行政10%、消費者団体6%、その他37%)
充足率	123%(参加者数/募集人数)	88%(参加者数/募集人数)

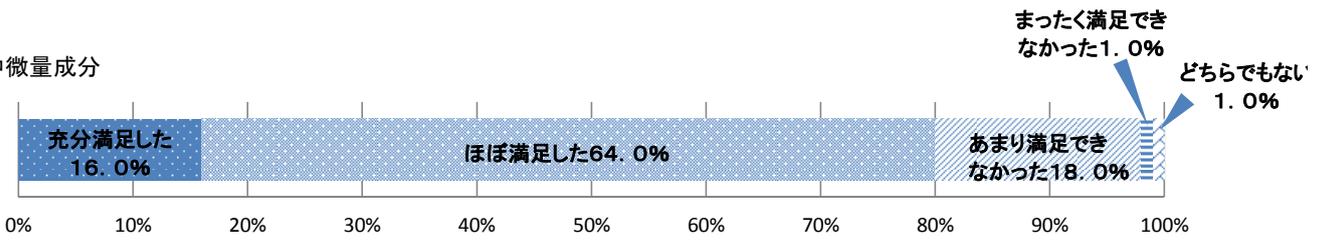
食品安全委員会セミナー参加者に対するアンケート結果

Qセミナーはどの程度満足できるものでしたか？

アルミニウム

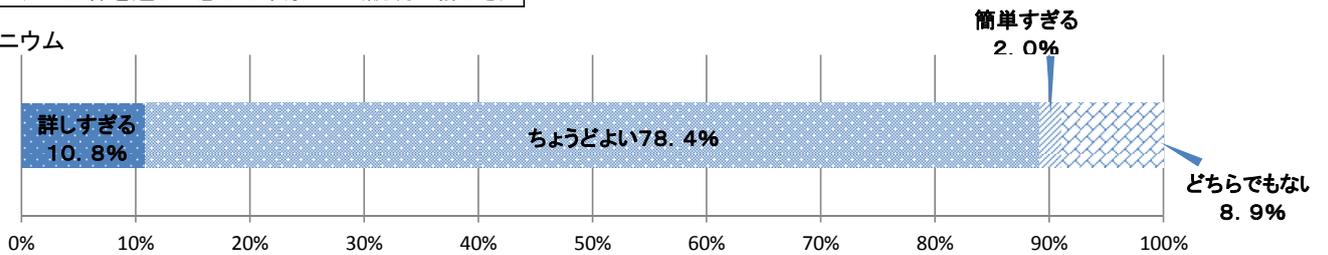


食品中微量成分

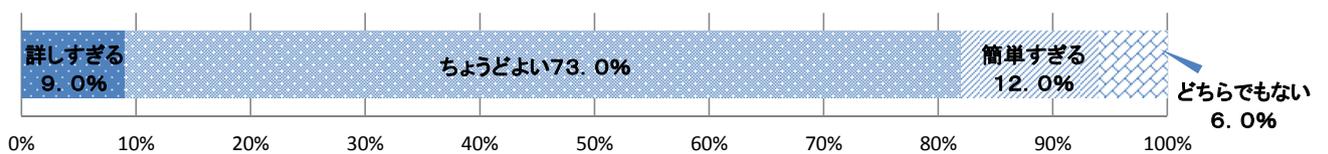


Qセミナー全体を通じて感じた印象は？(説明の詳しさ)

アルミニウム

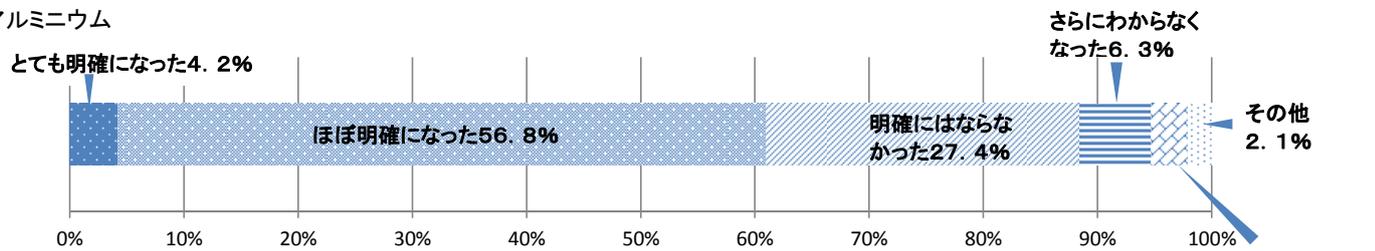


食品中微量成分

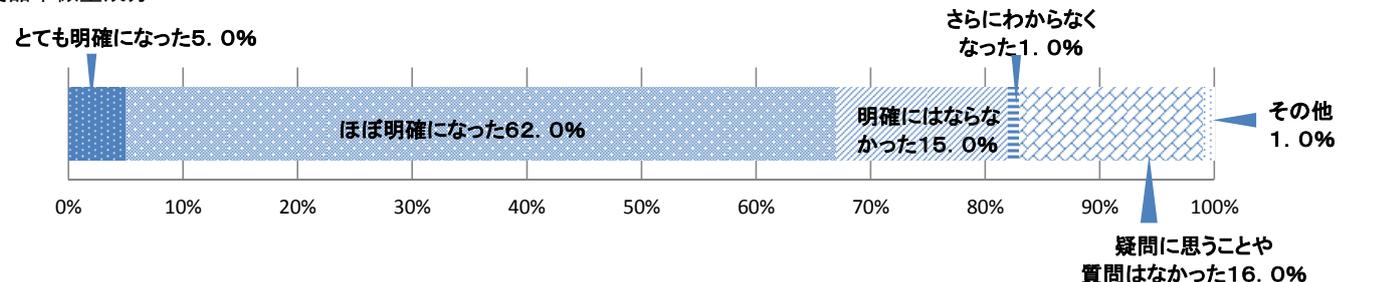


Q疑問に思われたことや質問したいことは、このセミナーで明確になりましたか？

アルミニウム



食品中微量成分



地方公共団体等が実施する意見交換会等への講師派遣

地方公共団体等が実施する意見交換会等に、依頼に応じて、食品安全委員会委員又は事務局職員を派遣し、リスク分析の考え方や食品安全委員会の役割と活動等に関する講演等を実施。

○平成24年12月末現在の実績 75件

(委員対応4件、事務局職員対応71件)

<依頼者の内訳>

- ・ 地方公共団体 36件
- ・ 他省庁、独立行政法人 5件
- ・ 大学、研究機関 12件
- ・ 公益法人、生活協同組合等 21件
- ・ 民間企業等 1件

○食品安全委員会委員による講演等

月 日	講演会名	対応委員
4月28日	平成24年度千葉県栄養士会研究教育協議会第1回講演会	畑江委員
5月21日	世田谷区 世田谷市民大学少人数特別講座	熊谷委員長代理
9月7日	日本放射線影響学会第55回大会	山添委員長代理
9月20日	大日本農会及び農林水産奨励会 平成24年度秋期中央農事講演会	山添委員長代理

ジュニア食品安全ゼミナール (地方公共団体との共催) の実施概要

参考 10

- 開催目的 ①子供たちが食品の安全性について興味を持ち、楽しみながら、知識や理解を深め、冷静に判断する目を育む
②食品の安全性を守るためには何が必要なのか、その中で、食品安全委員会はどのような役割を果たしているかを広報する

■開催日時・場所 ※表は開催日順

開催都道府県	開催日時	協力校	参加人数
佐賀県	10月10日(水) 14:20~15:10	佐賀県立致遠館中学校	1年生160名
熊本県	11月10日(土) 10:50~11:50	和水町立菊水中学校	全校生徒158+保護者+教育委員会関係者、家庭科教員等
兵庫県洲本市	11月15日(木) 14:30~15:20	洲本市立五色中学校	1年生107名+教育委員会関係者等

- 展開方法
- 事前に参加者生徒全員にアンケート実施(質問や疑問点の把握)
 - 事前に参加者生徒全員に副読本「科学の目で見える食品安全」を配布
 - 委員と意見交換をしてもらう生徒代表(10名程度)選出を協力校に依頼
 - 開催日当日、副読本に関連したクイズを参加者全員に実施
 - 開催日当日、委員と生徒代表者らとの意見交換や質疑応答を実施
 - 参加者生徒全員に事後アンケート協力依頼(参加後の意識変化等の把握)
- ※参加される生徒の人数、学年、会場設備や開催時間などを考慮し、協力校との事前相談の上、具体的な展開を決定しています。

■開催の様子



委員に質問をする生徒、回答する委員



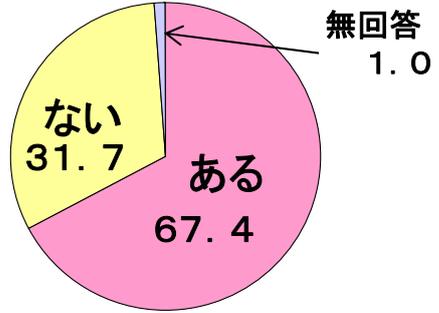
グループで回答(食品安全に関連した言葉)を作り上げる(写真:佐賀県)



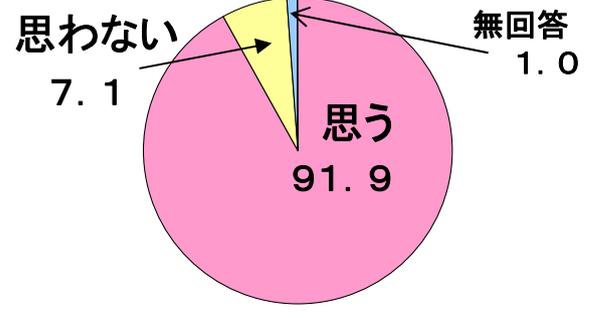
参加生徒に対する事前・事後アンケート結果(3中学校合計)

事前	副読本を読む前に回答 アンケート回収数: 417名	事後	ゼミナール受講後に回答 アンケート回収数: 407名
-----------	------------------------------	-----------	-------------------------------

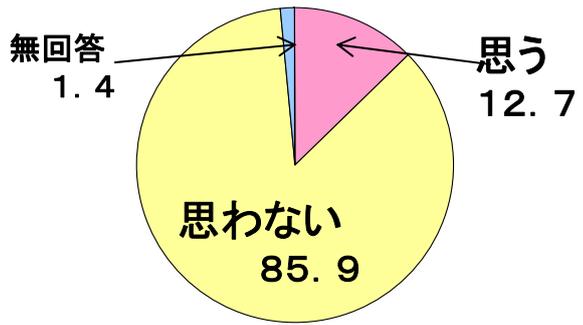
事前 自分が食べているものが安全かどうか考えたことがある(%)



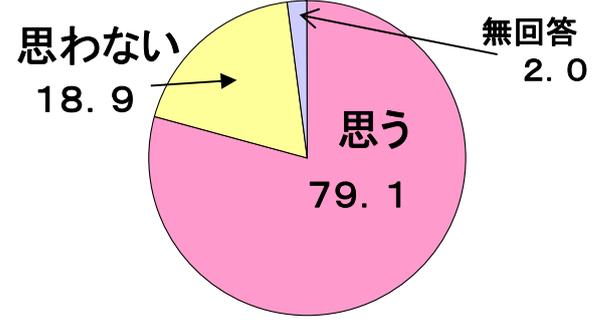
事後 食品の安全性について、自分なりに考えてみようと思う(%)



事前 安全な食品を選ぶための知識を十分に持っていると思う(%)



事後 食品の安全について、自分で判断するために必要な知識が身に付いたと思う(%)



事後 以下のそれぞれの項目についての理解度(%)

